



広報 ほうじょう

町の人口

(昭和59年 8月30日現在)
前月比較

男	3,981 (- 3)
女	4,330 (+17)
計	8,311 (+14)
世帯数	2,691 (+ 4)



おめでとう
新成人

九十二人が大人の仲間入り

当町の真夏の成人式は、八月十五日、中央公民館で行われ対象者九十二人のうち、六十八人が出席しました。

まず祝詞の中で稲富教育長は、『物事にはリハールがくり返される、しかし人生にはリハールがない。人生はすべて本番であり選択の連続であるので、一瞬々々真剣に生きてほしい』とあいさつ。続いて中島町長は、

『正月(一月)にある成人式もそれなりに意義があると思う。夏の成人式は盆休みに県外に出ている成人者が気楽に参加出来る、昭和三十九年四月から四十年三月までに生まれた人達をお迎えして、成人式即クラス会という発想である。人生はやり直しがきかない。私たちは反省させられる事が多い。今後は自分の人生は自分の考え、知恵で切り開いてほしい。方城町は俺達が背負っていくんだ、というプライドを持って生きていくてくさい。』とあいさつ。

最後に山口議長は、『自分の仕事に誇りを持つ、人間は真実を持つことが大切だ、希望を持ってがんばっていただきたい』とあいさつ。

祝詞の後、新成人者代表、笠真理子さんが「自信と勇氣と責任をもって努力していきたい」と力強く誓いの言葉を述べました。

講演では、音成リクレーションセンター研究所長 音成彦治郎さんが『現代に生きる若者』と題して、男は鉄をも砕く力を持つておくこと、高校生以上になって怒ってくれる人がいたら一生その人につかえていけ、多くの友を持つて親友は少ないでいい、昨日あったいやなことは全部捨てなさい、悲しみや悩みがあれば、この胸に来なさい、くだらんものであれば鉄拳をふるう。』と、成人者に対してすばらしいお話しをプレゼント。とても五十八才とは思えない。体は三十才の若さだ(人命救助活動のため海底四十メートルまでもぐれる体力を持っている)。

講演のあと、町青年団の指揮により、それぞれ各自で書いた十代の別れの短冊をタイムカプセルに詰め、前庭に埋めました。また二十歳の旅立ちのメッセージを書いた短冊をつけた風船を大空に一斉に飛ばしました。